

美術科学習指導案

日時 平成22年5月21日（金）第1校時

対象 1年1組（男子20名 女子20名 計40名）

指導者 教諭 前野耕一

1 題材 1年鑑賞

2 題材名 「わたしのお気に入りの一点」

3 題材設定の理由

（1）題材観

近年、日本の美術館等への入館者数が増加傾向にある。2009年3月に発表されたロンドンのTHE ART NEWSPAPERによる2008年度世界の展覧会観客動員数では、ベスト10中5つが日本で開催された展覧会であった。この結果を見ると、社会において美術鑑賞が人々の生活の中に浸透しているように感じる。しかし、その一方で、美術展のイベント化が進み、知名度の高い人気のある美術展へ人々の流れが集中するという傾向にある。この傾向から、作品のよさや美しさを味わうという美術鑑賞の本来のよさが失われつつあるように感じる。新学習指導要領では、よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てること、我が国の美術文化に関する指導、美術文化の継承と創造への関心を高めることが改善の基本方針として述べられている。そのため、中学校美術におけるB鑑賞は、感性や想像力を働かせて、自然の造形の美しさや、人類のみが成しうる「美の創造」という素晴らしさを感じ取り味わい、自らの人生や生活を潤し、心豊かにしていく主体的で創造的な学習を行っていく必要があるとしている。

本題材は、自分なりの見方や感じ方を大切にする鑑賞指導に取り組むことによって、鑑賞する対象に対して、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい意味や価値をつくり出していける生徒の育成を目指している。そのため、本時では、対話等を利用した指導や教具としてアートカードを利用した指導に取り組む。これらの活動を通して、生徒たちは、造形的な言語をはじめとした習得した知識・技能、新たな知識・技能を活用してカード間や課題とカード間の関係性に気付きながら思考し、作品の見え方や感じ方の根拠について考えていく。そして、そのときの自分の考えと友達の考えとを交流することによって、お互いの見方や考え方の違いに触れ、自分の思考の特性を認識できたり、自分の中に創造された作品に対する価値を刷新したりできる。このような自分なりの価値意識をもって他者の見方や考え方に触れたり、共有化したりすることを通して生徒は、自分なりの見方や感じ方ができるようになっていくと考え、本題材を設定した。

（2）指導観

本校の生徒の実態として、様々な小学校区から進学してきているため、図画工作科における鑑賞の経験に大きな差が生じている。そのため、中学校1年生で、絵の見方や感じ方について学ぶことは、今後の中学校美術科における表現や鑑賞の学習を展開していく中で、必要な力の育成につながるものと考えられる。

本題材「私のお気に入りの一点」は、生徒が習得した知識・技能や新たな知識・技能を活用し、アートカードの中から自分の好きな作品を3点選び、その選んだ理由をお互いに交流した後に、最終的に自分のお気に入りの1点を決定していく独立した鑑賞学習である。本学習を通して生徒は、今後、鑑賞する際に知識・技能を活用しやすいように知識・技能を整理し、「豊かな知」として習得していくものと考えられる。

題材の導入場面では、アメリア・アメナスの対話等を利用した鑑賞のメソッドによる鑑賞活動に全員で取り組むことで、習得した知識・技能を視点として活用する中で、自分なりの見方や感じ方ができることを体験させる。ま

た、1枚の作品を通して、教師と生徒、生徒と生徒との対話を経て、作品に対する自分なりの新たな価値づくりを学ばせられるようにしたい。

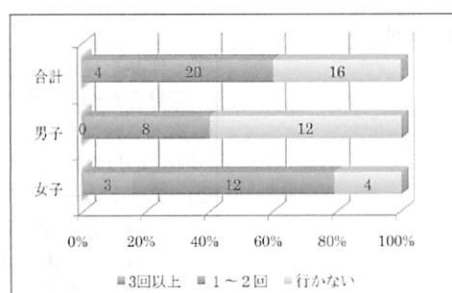
展開の場面では、小グループで活動し、「47枚のアートカードの中から自分の好きな作品を3点選び、友達に選んだ理由を紹介しながらアートカードを手元にする。」というルールでアートゲームに取り組ませる。この活動に取り組む中で、生徒たちは、作品を選ぶ際の自分の好みや傾向に気付いたり、友達の作品に対する見方や感じ方、価値に触れたりする。最終的に1枚の作品を選ぶことで、習得した知識・技能を活用し、より深く課題とカード間やカードとカード間の関係性について考え、自分なりの作品に対する価値を創造させる。これらの言語活動を通して、感性を働かせ、自分なりの絵の見方や感じ方を学ばせるとともに思考力・判断力・表現力等の育成にもつなげたい。

本題材では教具として、鹿児島市立美術館で販売されているポストカードを利用し、アートカードを作成し、使用することにした。アートカードに印刷されている郷土にゆかりのある作家や美術館に収蔵されている身近な作品の鑑賞体験を通して、地域の美術文化への興味・関心を高めるとともに、長期休業中に実施する鑑賞教室への取組へと活動がつながるようにしたい。

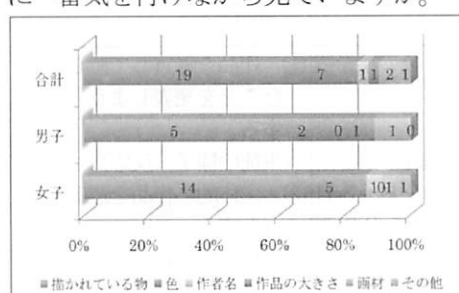
(3) 生徒の実態

本時の指導に先立ちアンケート調査を行った結果を示す。(対象は附属中学校1年1組 40名 4月21日実施)

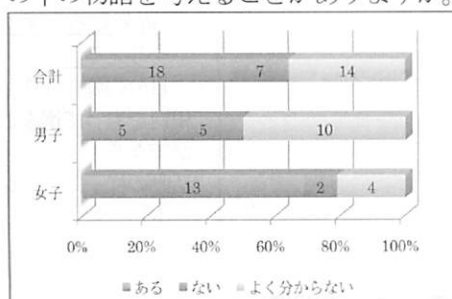
①あなたは、年に何回ほど美術館を訪れますか。



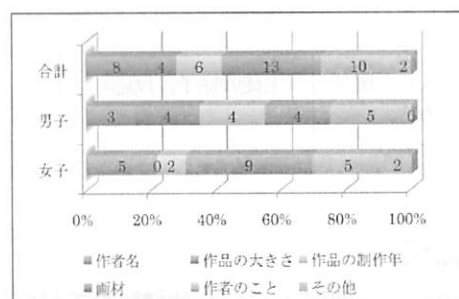
②あなたは、美術館で絵を見るとき、どのようなところに一番気を付けながら見えていますか。



③あなたは、作品に描かれているものを見て、作品の中の物語を考えることがありますか。



④あなたが絵を見るときに知りたい情報は何か。



本学級の生徒たちは、日頃から美術の学習に意欲的に取り組んでいる。鑑賞に関するアンケートを行ってみると、美術館の利用状況に関する①の問いに対して、クラスの60%の生徒が、年に1回以上美術館を訪れていることが分かった。女子だけで見た場合、80%に近い生徒が利用していることから、美術館での鑑賞経験に男女差があることが明らかになった。また、鑑賞する際の視点に関する②の問いに対しては、男女とも多くの生徒が「描かれているもの」「色」に注目して鑑賞していることが分かった。この結果から、鑑賞の際に、「描かれているもの」や「色」に対する知識を活用しながら生徒が絵を理解しようとしているものと予想される。作品に対する自分なりの見方、感じ方の経験に関する③の問いに対しては、女子で美術館に行ったことのある生徒の内、68%があると回答している。一方、男子で美術館に行ったことのある生徒の内、75%が「ない」「よく分からない」と回答していることから、指導の際に、描かれているもの等をよりどころとしながら、作品について自分なりの考えを説明する活動を積極的に取り入れていきたい。鑑賞の際に知りたい情報に関する④の問いに対しては、「画材」や「作者」、「作者自身に関する情報」を欲しているということが明らかになった。このことから、自分なりの見方や感じ方を大切にす

る指導においても美術に関する専門的な知識を織り交ぜた指導の必要性を感じる。

これらの生徒の実態を念頭におきながら、自分なりの見方や感じ方を大切にした鑑賞指導を通して、よりよく価値を創造できる生徒の育成を目指す授業づくりを行っていきたい。

4 題材の指導目標

- (1) 題材への関心・意欲・態度
主体的に作品と向き合い、自分のお気に入りの作品を選び、友達に紹介することができるようにする。
- (2) 鑑賞の能力
自分の見方や感じ方を大切にしながら作品を味わい、作品のよさや美しさを友達に紹介したり、お互いの作品紹介から学んだりしながら自分の中に新しい価値をつくりだせるようにする。

5 題材の評価規準及び単位時間の評価規準

※単位時間の評価規準については「おおむね満足できる：B」とする場合の規準とする。() は、評価の対象、◎はBに到達しない生徒への手だてとする。

題材の評価規準		ア関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
		作品に興味、関心を持ち、主体的に作品を味わったり、友達と言語によって交流したりすることができる。			知識・技能を活用し、自分の見方や感じ方で作品のよさや美しさを感じ取り、作品について語ることができる。
時	学習内容	単位時間の評価規準及び生徒への手だて			
1	1 クラス全員で1枚の絵を鑑賞する。 2 学習課題を把握する。 3 アートカードの中から自分が好きなカードを3枚選ぶ。 4 カードを選んだ理由をまとめる。 5 グループ内でお互いが選んだ作品を紹介し合う。 6 一番のお気に入りのを選び、その理由をまとめる。 7 学習のまとめをする。 8 自己評価する。	① 作品を鑑賞して感じたことを発表しようとする。 (生徒の様子、反応) ② 主体的に作品を選ぶとする。 (生徒の様子) ③ 自分の意見を述べ友達の意見を聞こうとする。 (生徒の様子、反応)			① 作品を見て、自分の意見をもつことができる。 (生徒の反応) ② アートカードの中から自分の好きな作品を3点選び、理由を述べる ことができる。 (活動の様子、ワークシート) ◎作品を見るための視点を与える。 ③ 自分の好きな作品を根拠をもって選ぶことができる。 (活動の様子、ワークシート)

6 題材の指導計画

- (1) 本校の研究内容との関連から（全体緒論の手だてと教科論文、本時の手だてとの関連）

研究の視点Ⅰ

全体論 知を活用させるための問題（課題）設定の工夫 P10-2-(1)
教科論 学習課題設定の工夫 P188-1-(3)

本時の手だて①

生徒が知識・技能間の関係性や課題と知識・技能との関係性に気付き、深く解釈でき、その結果を表出できるように、複数のアートカードからお気に入りの一枚を選び出す課題を設定した。

研究の視点Ⅱ

全体論 関係性を見抜かせる指導の工夫 P11-2-(2)
知の共有化 P10-1-(2)
教科論 対話等を利用して関係性に気付かせ、知識・技能の共有化を図る言語活動 P190-2-(2)

本時の手だて②

全員で同じ作品を鑑賞していく場面で、自分なりの作品に対する思いを各自がもち、その思いの根拠について対話等を通して明らかにしていく。その過程で、習得した知識・技能と作品との関係性から自分なりの作品に対する価値が創造されていることに気付かせる。また、教師と生徒との対話は、自分一人では、気付けなかった視点に気付いたり、自分の中に創造された作品に対する価値を刷新させたりすることにつながり、豊かな知を習得することができる。

研究の視点Ⅲ

全体論	関係性を見抜かせる指導の工夫	・・・ P 1 1 - 2 - (2)
	知の共有化	・・・ P 1 0 - 1 - (2)
教科論	教具を利用して関係性に気付かせ、知識・技能の活用や共有化を図る言語活動	・・・ P 1 9 1 - 2 - (3)

本時の手だて③

本時では、教具としてアートカードを利用し、カードの中から好きな作品を選ばせ、そのカードを選んだ理由について友達と意見交換を行う。これらの活動では、生徒がカードを選ぶ段階で、習得された知識・技能や新たな知識・技能を基にしながら作品を味わうための手がかりを探り、それらの関係性から自分なりの作品に対する価値を創造していく。また、お互いの作品を選んだ理由を発表し合う活動を通して、自分一人では気付けなかった点に気付いたり、自分の中に創造された作品に対する価値を刷新させたりすることにつながり、豊かな知を習得することができる。

(2) 独立した鑑賞題材の年間指導計画 (全体4時間：本時2／5)

時間	題 材 名	指 導 目 標
1	「絵の見方を学ぼう」	(1) 題材への関心・意欲・態度 主体的に作品と向き合い、自分なりの鑑賞を楽しめるようにする。 (2) 鑑賞の能力 美術作品の基本的な鑑賞のあり方や方法を身に付け、よさや美しさを感じ取れるようにする。
1 (本時)	「わたしのお気に入りの一点」	(1) 題材への関心・意欲・態度 主体的に作品と向き合い、自分のお気に入りの作品を選び、友達に紹介することができるようにする。 (2) 鑑賞の能力 自分の見方や感じ方を大切にしながら作品を味わい、作品のよさや美しさを友達に紹介したり、お互いの作品紹介から学んだりしながら自分の中に新しい価値をつくりだせるようにする。
1	「生活のデザイン」	(1) 題材への関心・意欲・態度 生活において形や色彩、材料などの造形の働きが、使う人の気持ちを美しく心豊かにすることに興味をもてるようにする。 (2) 鑑賞の能力 機能性と美しさの調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、対象の見方や感じ方を広げられるようにする。
2	「展覧会をつくろう！」	(1) 題材への関心・意欲・態度 主体的に作品と向き合い、自分のお気に入りの作品を選び、友達に紹介することができるようにする。 (2) 発想・構想の能力 主題に基づいてカードを選び、カード間の関係性から展覧会のタイトルを発想できるようにする。 (3) 鑑賞の能力 自分の見方や感じ方を大切にしながら作品を味わい、作品のよさや美しさを友達に紹介したり、お互いの作品紹介から学んだりしながら自分の中に新しい価値をつくりだせるようにする。

7 本時の実際 (1／1)

(1) 本時の指導目標

ア 主体的に作品と向き合い、自分のお気に入りの作品を選び、友達に紹介することができるようにする。

(題材への関心・意欲・態度)

イ 自分の見方や感じ方を大切にしながら作品を味わい、作品のよさや美しさを友達に紹介したり、お互いの作品紹介から学んだりしながら自分の中に新しい価値をつくりだせるようにする。(鑑賞の能力)

(2) 準備

ア 指導者・・・教科書、美術資料集、鑑賞資料、アートカード、ワークシート・自己評価カード

イ 生徒・・・教科書、美術資料、クロッキー帳、筆記用具

(3) 本時の展開

経過	時間	主な学習活動と生徒の意識	形態	指導上の留意点と評価の手だて
導入	9	はじまり 作品の鑑賞 1 学習課題の把握 2	一斉	研究の視点Ⅰ 課題設定の工夫 ・ 教室前方へ生徒を集め、提示した作品に対して、自由な雰囲気の中で見て感じたことを発表させる。
	10	作品を選ぶ 3	一斉	木村探元 松に麒麟の図(鹿児島市立美術館蔵) 紙本墨画淡彩 発問：この作品について話してみましよう。あなたはどんなことを感じますか。
展開	8	カード選択の理由の紹介 4	グループ	【評価規準】 ア① 作品を鑑賞して感じたことを発表しようとする。(生徒の様子、反応) エ① 作品を見て、自分の意見をもつことができる。(生徒の反応)
	8	ワークシートをまとめる 5	グループ	研究の視点Ⅱ 対話等を利用して関係性に気付かせ、知識・技能の共有化を図る言語活動 研究の視点Ⅲ 教具を利用して関係性に気付かせ、知識・技能の活用や共有化を図る言語活動
閉	5	作品の選択及び理由の整理 6	個別	【評価規準】 ア② 主体的に作品を選ぼうとする。(生徒の様子) エ② アートカードの中から自分の好きな作品を3点選び、理由を述べるができる。(生徒の様子、ワークシート)
	8	学習のまとめ 7	グループ	・ 班長の司会の下、グループ内で自分の選んだ作品を紹介しながらアートカードを取らせる。質問が出たときは、適宜発表者に返答させる。 発問：どうしてその3枚を選んだのですか。 ・ ワークシートの自分が選んだ図版に印しを付けさせる。
終末	2	本時の学習を振り返る 8	一斉	・ 作品を選んでもその理由が書けない生徒には、対話を通して、生徒自身が作品を選んだ理由に気付かせる。 【評価規準】 ア③ 自分の意見を述べ友達の見聞を聞こうとする。(生徒の様子、反応) ・ 自分が選んだ3点の中から一番お気に入りの作品を選び、選んだ理由を文章でまとめさせる。
		おわり	一斉	【評価規準】 エ③ 自分の好きな作品を根拠をもって選ぶことができる。(活動の様子、ワークシート) ・ 作品を提示しながら、一番のお気に入りの作品について数名に発表させる。 ・ 自己評価カードの記入を通して、本時の学習を客観的に振り返らせる。 ・ 今日の学習を振り返らせ、日常的な鑑賞への興味をもたせる。